

モビリティ

サステナブル・デジタル・グローバルな強みを活かし、
マルチモーダル化、自動運転、Agentic AIで
次世代モビリティを牽引する

執行役専務
モビリティセクターCEO

ジュゼッペ・マリノ

事業環境

モビリティの未来は、市場を変革し、世界的な鉄道インフラへの投資を加速させる3つの大きな潮流によって形作られています。第一は、人口増加とエネルギーコストの上昇を背景とした、輸送能力拡大への需要です。第二は、サステナビリティに対する視野の広がりで、カーボンフットプリントの削減だけでなく、より手頃なモビリティソリューションの提供にも重点が置かれています。第三は、複数の交通手段をシームレスに接続し、マルチモーダル化を推進するデジタル化の役割です。

世界の鉄道市場は構造的な変革期にあり、中長期的な成長が見込まれています。短期的には、信号システム、車両、デジタルモビリティの各分野で、年率約4%の拡大が予想されています。こうした成長機会を確実に取り込むべく、当社はドイツ、東欧、中東をはじめとする高成長地域において、事業基盤の強化を進めています。

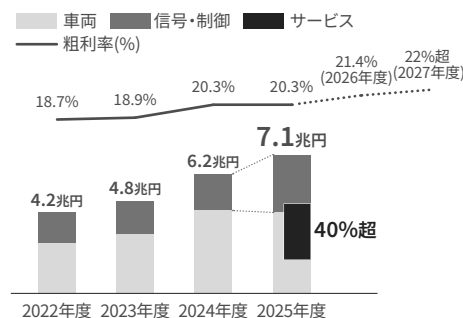
Inspire 2027の進捗

2025年度は、Inspire 2027で掲げた取り組みを着実に実行した一年となりました。売上収益は前年比13%増加し、Adj. EBITA率は0.4ポイント改善、受注も増加した結果、Book to Billレシオは1.2倍となりました。設備投資（CAPEX）を前年比65%増、研究開発投資を同25%増と大幅に拡大する一方で、PPAおよび統合関連費用を除くROICは2ポイント改善し12.5%となりました。また、キャッシュ・コンバージョン・サイクルも54.3日へ短縮しており、オペレーションの規律向上に向けた取り組みが着実に進展していることを示しています。

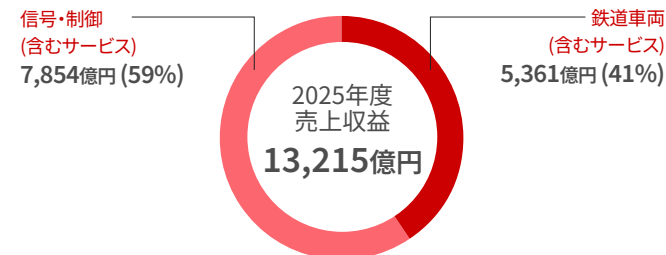
主要プロジェクトにおいても、トリノ、台湾、ピッツバーグをはじめ着実な進捗が見られました。デジタルモビリティ分野では、HMAX Mobilityを東武鉄道やコペンハーゲンなどで導入し、導入済み車両数は2,500編成に拡大しました。特に、これらの車両の35%超は日立以外のメーカー製であり、本プラットフォームがより広範な鉄道エコシステムに対応できることを示しています。HMAXの案件パイプラインは、前年の2,000億円超から6,000億円超へと急伸しており、力強い営業モメンタムを構築しています。さらに、センサー技術を有するOmnicomおよび公共交通向けITSプロバイダーであるClever Devicesの買収を通じて、戦略的M&Aを推進しました。これはマルチモーダル化に向けた大きな前進であり、HMAXプラットフォームをより広範なモビリティ領域へ展開することを可能にします。

この結果、当社は鉄道中心のOEMから、マルチモーダルなデジタルモビリティ企業への変革を加速しています。2015年度から2025年度までの10年間で売上収益を3.5倍に拡大した実績を基盤に、オーガニック成長と戦略的買収をバランスよく組み合わせながら、2030年までに売上収益約2兆円の達成をめざします。

受注残高の推移



事業構成

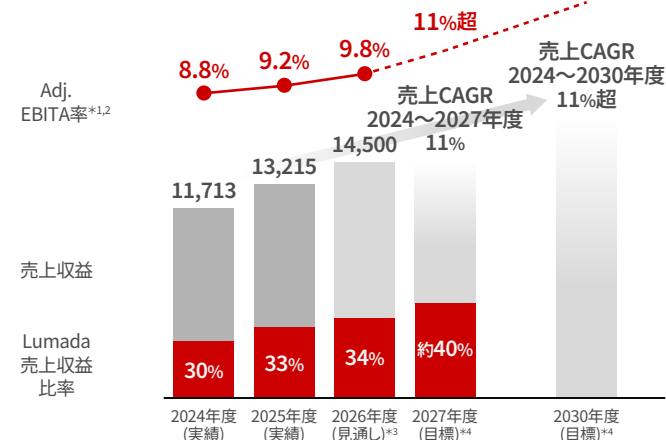


モビリティ

- ・鉄道車両
- ・鉄道車両サービス
- ・信号・制御
- ・信号・制御サービス

業績推移／Inspire 2027業績目標

(単位：億円)



ROIC

PPAおよび統合関連費用含み	7.0%*5	8.3%	9.4%	約12%
PPAおよび統合関連費用除き	10.5%*5	12.5%	12.3%	約14%

*1 調整後営業利益から買収に伴う無形資産などの償却費を足し戻し統合関連費用を除いた値

*2 統合関連費用を含む値: 8.1% (FY24)、8.2% (FY25)、9.4% (FY26)、約11% (FY27)

*3 2026年7月29日公表

*4 2026年6月10日公表

*5 GTS買収に伴う期首B/Sリスタート後（リスタート前のROIC（PPAおよび統合関連費用含み）は9.0%）

モビリティセクターの競争優位性

サステナビリティ、デジタル化、グローバルモビリティを力強いマクロトレンドと捉え、日立は、信号システムと車両の双方で確立された強みをもち、それを基盤にグローバルなフルラインプロバイダーとしてのポジションを活かしています。

信号システム

タレスGTSの統合完了により、信号システム分野におけるグローバルなフルラインプロバイダーとしての地位を確立しました。業界でも有数の包括的なポートフォリオを有し、デジタル信号システム、運行、アセットマネジメントの各機能をシームレスに組み合わせることで、グローバルでの事業拡大とさらなる価値創出を推進しています。

車両

モビリティセクターのデジタルアセット化を支える重要な柱である車両分野において、グローバルなフルラインプロバイダーとして事業を展開しています。特に高速鉄道およびサービス分野で強固なポジションを有しており、今後は高速鉄道プラットフォームに注力する選択的なアプローチにより成長を推進するとともに、長期的な事業の安定性を確保するため、サービス事業への投資を継続していきます。

3つの事業ドライバー



One Hitachi — DSSセクターとの協創事例

HMAXと先進モビリティ

One Hitachiの連携を通じて、Hitachi Railの豊富なドメインナレッジと運用ノウハウに、DSSセクターのデジタルレイバリティを融合し、HMAX Mobilityを創出しました。この包括的なデジタルモビリティプラットフォームは、車軸軸受や軌道状態の監視、転てつ機（線路の分岐装置）の分析、予知保全などの高度なデジタルアセットマネジメント（DAM）機能を統合し、リアルタイムでの運行最適化、車両検査の自動化、ライフサイクルコストの低減、信頼性・品質のさらなる向上を実現します。

・マルチモーダル化への大きな前進：Clever Devicesの戦略的買収を通じて、HMAXプラットフォームを公共交通を含むより広範なモビリティ領域へ拡大しています。これはマルチモーダル化に向けた大きな前進であり、より広範なモビリティエ

コシステムにまたがるデータを統合し、提供価値のさらなる向上を可能にします。
・フィジカルAIと先進モビリティの先駆者として：フィジカルAIを活用し、最先端の状況認識機能と高度な自動運転安全機能を備えた自動運転トラムにより、既存インフラの変革を進めています。主な事例として、定時運行率99%超を実現するコペンハーゲンメトロの24時間365日の自動運転（GoA4）や、東武鉄道における自動検査向け次世代DAMが挙げられます。

HMAXは力強い成長モメンタムを維持しています。HMAXの案件パイプラインは、前年の2,000億円超から現在では6,000億円超へ拡大しており、20カ国以上で100件を超える案件機会を有しています。

Agentic AIの導入

オペレーションの変革を推進し、業務執行を加速するため、モビリティセクターでは、産業プロセスおよびエンジニアリングプロセスへのAgentic AIの導入に積極的な投資を行っています。中核プログラムである「RAILA / Project Jackie+」を通じて、すでにエンジニアリングのさまざまな領域に90のAIエージェントを導入しており、市場投入までの期間短縮、製品性能の向上、生産性の向上に大きく貢献しています。

具体例として、入札関連文書の作成・準備、図面作成、ソフトウェアコーディングにおいてこれらの高度なAI機能を活用し、業務の効率性とスピードを大幅に高めています。

産業プロセスにおけるAgentic AI導入—生産性向上とイノベーションの実例

RAILA/Project Jackie+

AIエージェントによる業務遂行の高度化と加速
ナレッジ管理ツール：文書の分析・理解・作成
要件管理：抽出、コンプライアンス、品質管理、分類
ERPデータの抽出・変換・基幹ツールへの統合
入札ドキュメント作成：内容理解・分析
会議記録・アクション整理（Copilot 365活用）
HRチャットボット：社内規程・FAQ対応
図表作成：マルチモーダルな図解生成
ソフトウェア開発・単体テスト
入札文書作成：高品質なRFP回答案の作成



*AI生成画像を使用

